

メディア・アーツ都市国際フォーラム2014

「都市の美学—ソーシャル・メディア時代の創造性」



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



SAPPORO

City of Media Arts
Designated UNESCO
Creative City in 2013

**Media Arts City: Aesthetics of Mediation
International Forum on Creativity and the City
in an Age of Social Media**
September 30th 2014 / Sapporo Japan

日時：2014年9月30日（火曜）14:00~18:00

会場：北翔大学北方圏学術情報センター（ポルト）

札幌市中央区南1条西22丁目1番1号

主催：札幌市+北翔大学

協力：札幌メディア・アーツ・ラボ(SMAL)

+Berliner Gazette

入場無料・日英同時通訳有

参加申込：9月26日（金）までに所属、氏名、参加人数をご記入の上、以下のメールにてお申し込みください。

creativecity@city.sapporo.jp

メディア・アーツ都市国際フォーラム2014

「都市の美学—ソーシャルメディア時代の創造性」

札幌市は、2013年11月、ユネスコ創造都市ネットワークに「メディア・アーツ都市」として加盟しました。メディア・アーツ都市は、都市の息づかいを感知し、将来の課題を調停します。都市を感知する美学は、私たちの認識とコミュニケーションに関わる主要な器官です。

近年、ソーシャルメディアの浸透は、今や都市環境の重要な基盤とさえなっています。スマートフォンなどの画面を通して、今、都市と人々に何が起きているのでしょうか？都市はあらゆる人々の日常生活の具体的な状況を反映し、様々な機会を提供する重要なメディアになっています。

一方、創造都市自体にもいくつかの課題が浮上しています。創造都市は、すべての人に達する公共政策であることが重要です。コモンズとしての創造都市モデルとは何でしょうか？

私たちは、将来の都市課題をメディア・アーツとともに解決するさまざまな話題を議論したいと考えます。それは、世界の各都市で起こることであり、今後私たちの共通の課題でもあるからです。都市が人々にとって適切なメディアとなるために、今、私たちは多くの課題と向き合います。

プログラム

第1部 14:00~15:25

基調講演「創造性とコモンズ：都市とその可能性を共有する」

マックス・ハイヴン氏（ノバスコシア大学芸術デザイン学部教授）

事例報告「メディアとしての都市」

1. 「接続する都市とパブリックアート—欧州共同体のメディア・アーツ戦略」

スーザ・ポップ女史（パブリック・アート・ラボ所長、Connecting Cities Network 代表幹事）

2. 「世界に広がる創造の連鎖—初音ミク現象」

伊藤博之氏（クリプトン・フューチャー・メディア 代表取締役）

3. 「デジタル・ネイティブ・ジャーナリスト—創造都市におけるクリエイティブ・クラスの解放」
マグダレーナ・タウベ女史（コンラッド・アデナウアー財団フェロー）

3. 「ソーシャルメディアとコミュニティー共創の経済」

武田 隆氏（エイベック研究所 代表取締役）

15:25 休憩10分

特別演奏 15:35~15:50

OKI 氏（アイヌ伝統楽器トンコリ奏者）

第2部 ラウンド・テーブル 15:50~18:00

イントロダクション：武邑光裕氏（札幌メディア・アーツ・ラボ所長）

1. 「日本におけるユネスコ創造都市の課題と挑戦」

金沢市、神戸市、名古屋市、札幌市の創造都市担当者
モデレーター：佐々木雅幸氏（文化庁文化芸術創造都市振興室長、同志社大学経済学研究科特別客員教授）

2. 「都市とメディア、その将来展望」

マックス・ハイヴン氏、スーザ・ポップ氏、伊藤博之氏、
マグダレーナ・タウベ女史、武田 隆氏

モデレーター：クリスチャン・ウォズニキ氏（「ベルリーナ・ガゼット」誌編集発行人、ジャーナリスト）

メディア・アーツ都市国際フォーラム2014 「都市の美学—ソーシャルメディア時代の創造性」 主な登壇者



マックス・ヘイヴン氏

作家、およびノバスコシア大学芸術デザイン学部の美術史および批評研究分野の教授。彼はマクマスター大学でのグローバルイノベーション研究において、英語およびカルチュラル・スタディーズの博士号を取得。氏は、ニューヨーク大学の芸術と公共政策学部の博士過程でも2年を過ごした。氏の主な業績と学術的調査は、過去40年にわたる社会と文化の金融化に注目した点で、社会的テキストを含め、カルチュラル・スタディーズ、政治文化、調停、歴史調査および文化的ロジックを多くのジャーナルで公表している。主な著作には、『金融化の文化:大衆文化と日常生活の中の擬制資本』、『想像力の危機、力の危機:資本主義、創造性とコモンズ』がある。



武田 隆氏

1996年、学生ベンチャーとして起業。クライアント企業各社との数年に及ぶ共同実験を経て、ソーシャルメディアをマーケティングに活用する「企業コミュニティ」の理論と手法を独自開発。その理論の中核には「心あたたまる関係と経済効果の融合」がある。業界トップの会社から評価を得て、累計300社のマーケティングを支援。ソーシャルメディア構築市場トップシェア(矢野経済研究所調べ)。2011年7月に出版した著書『ソーシャルメディア進化論』(ダイヤモンド社)は第6刷のロングセラーとなっている。1974年生まれ。海浜幕張出身。



スーサ・ポップ女史

2003年にベルリンでパブリック・アート・ラボを設立。以後マネージング・ディレクターをつとめる。公共空間を利用するアート・プロジェクト・ネットワークを通じた創造的なコミュニティの構築や、芸術的なプロセスを一時的に保有する都市環境のデジタルメディア・ツールとその仮想公共圏の可能性を活用する市民参加を触媒している。欧州共同体からの資金援助のもと、「コネクティング・シティーズ・ネットワーク」の代表幹事をつとめ、欧州都市間を結ぶメディア・ファサード・フェスティバル、モバイル博物館などのプロジェクトを展開している。欧州メディア科学大学およびポツダム大学アーツ・マネジメントの講師を兼任している。



OKI氏

アサンカラ(旭川)アイヌの血を引く、カラフト・アイヌの伝統弦楽器「トンコリ」の奏者。アイヌの伝統を軸足に斬新なサウンド作りで独自の音楽スタイルを切り拓き、知られざるアイヌ音楽の魅力を国内外に知らしめてきたミュージシャン/プロデューサー。



マグダレーナ・タウベ女史

旧東ドイツ、ブランデンブルグ、プリッツワルク生。ベルリンのフンボルト大学にてドイツ文学、英語とアメリカ研究を学ぶ(2003-2009)。修士論文は「インターネット上の原作者」、博士論文は「オンライン・ジャーナリズム」(2015年予定)。2010年以来、コンラッド・アデナウアー財団フェロー。ドイツ政府家族省が運営するオンライン・ポータル「文化とメディア」責任者。ドイツの全国的なオンライン雑誌 Kulturportale.deの編集長(2009-2010)。ドイツ国内のみならず、国際的なメディアを舞台にジャーナリスト、大学講師として活躍している。



佐々木雅幸氏

日本における創造都市研究の第1人者。現職は文化庁文化芸術創造都市振興室長、同志社大学経済学研究科特別客員教授。金沢大学、立命館大学、ポロニヤ大学などで研究を重ね、2008年度から2010年度まで文化経済学会<日本>会長、2010年から国際学術雑誌City, Culture & Society (Elsevierから刊行)の編集長も務める。主著に、『創造都市への挑戦』(岩波現代文庫、2012)、『創造都市の経済学』(勁草書房、1997)、『創造都市と社会包摂』[編著](水曜社、2009)他多数。



伊藤博之氏

北海道生まれ。北海道大学に勤務の後、1995年7月札幌にてクリプトン・フューチャー・メディア株式会社を設立、代表取締役役に就任、現在に至る。世界各国に100数社の提携先を持ち、1000万件以上のサウンドコンテンツをライセンス販売している。会社のスローガンは、『音で発想するチーム』。DTMソフトウェア、携帯コンテンツ、サウンド配信サービスなど、音を発想源としたサービス構築・技術開発を、フラットな社内体制のもと日々進めている。北海学園大学経済卒。北海道情報大学客員教授、京都情報大学院大学教授も兼任。2013年、藍綬褒章を受章。



クリスチャン・ウォズニキ氏

ポーランドに生まれ、ベルリンのフンボルト大学で法学を専攻。ベルリンのジャーナリスト、アーティスト、研究者、プログラマー、活動家などが共同参加するインターネット新聞「Berliner Gazette」誌を1999年に創設し、以来編集発行人として活躍。氏のリーダーシップのもと、Berliner Gazetteはベルリンにおける実験プラットフォームの地位を確立、アカデミズムや文化環境、専門家や幅広い年齢層から支持されている。1995年から1998年にはTelepolisの東京特派員として日本に滞在。以後、氏は多彩な文化芸術プロジェクトのキュレーターとしても活動し、多数の印刷・オンライン上の論説を発表している。

主催/協力

